

# 数学

## 京都大学[文系] (前期)

### <全体分析>

試験時間	120 分	解答問題数	5 題
------	-------	-------	-----

解答形式  
記述式

#### 分量・難易 (前年比較)

分量 (減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加)

難易 (易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化)

#### 出題の特徴

小問 ((1)、(2)) はない。4、5は理系と共通。

#### その他トピックス (入試改革の方向性を踏まえた目新しい出題など)

「数独」をモデルにした問題があった。近年よく見られた常用対数の評価の問題はなかった。

### <大問分析>

問題番号	出題分野・テーマ	範囲	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
1	積分法	数学Ⅱ	絶対値記号を含む関数のグラフと接線で囲まれた部分の面積	標準
2	微分法	数学Ⅱ	2点で直交する放物線の条件	難
3	整数	数学A	平方数 (整数の2乗) を4で割った余りを利用する	やや難
4	空間ベクトル	数学B	座標の設定の仕方がポイント	やや難
5	場合の数	数学A	1行目と1列目の7つの数を定めてから、行の入れ替え、列の入れ替えを考えるとよい	やや難

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

### <学習対策>

論理的な思考力と論証力を養うこと。誘導の小問がない形で出題されるので、方針を立てることや有効な設定を行うことを意識して、小問を削除した問題で練習しておくのがよい。